

## 災害の情報に 目を配ろう

いっどこで遭うかわからない災害に対して、普段からどのような準備をしているだろうか。どのような災害か、どこで災害に遭うかによって、備え方は違うが、「まずは命が助かることが重要、次に生活するために何が必要かを考える

ます。自分だけでなく、家族には何が必要なかをよく考えて情報を集め、備えましょう」と横内代表は話す。

防災士は地域の防災力向上のために知識や情報を集め、普段から防災と減災の知識を地域住民に発信し、災害時には協力して被災地支援ボランティア活動にも取り組む。さまざまな被災地に赴いた経験から日常的にできる備えにつ

いてアドバイスいただいた。「まずは災害の情報に目を配りましょう。どのような被害がどういう状況で出ているのかを知ることが、災害の対策を行う上で重要なヒントとなります」。

## 外出時の備え 情報収集と携行品

強風や大雨、地震など屋外

## 雨の強さと降り方

1時間雨量(mm)	雨の強さ(予報用語)	人への影響	屋外の様子	車に乗っていて
10~20	やや強い雨	地面からの跳ね返りで足元がぬれる	地面一面に水たまりができる	
20~30	強い雨			ワイパーを速くしてもみえにくい
30~50	激しい雨	傘をさしてもぬれる	道路が川のようになる	高速走行時、車輪と路面の間に水膜が生じブレーキが効かなくなる(ハイドロプランニング現象)
50~80	非常に激しい雨	傘はまったく役に立たなくなる	水しぶきであたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる	車の運転は危険
80~	猛烈な雨			

## 風の強さと吹き方

平均風速(m/s) およその時速	風の強さ (予報用語)	速さの目安	人への影響	屋外の様子	走行中の車	建造物	
10~15 ~約50km/h	やや強い風	一般道路の自動車	風に向かって歩きにくくなる。傘がさせない	樹木全体が揺れ始める。電線が揺れ始める	道路の吹き流しの角度が水平になり、高速運転中は横風に流される感覚を受ける	植が揺れ始める	
15~20 ~約70km/h	強い風		風に向かって歩けなくなり、転倒する人も出る。高所での作業は極めて危険	電線が鳴り始める。看板やトタン板が外れ始める	高速運転中は、横風に流される感覚が大きくなる	屋根瓦・屋根葺材がはがれるものがある。雨戸やシャッターが揺れる	
20~25 ~約90km/h	非常に強い風	高速道路の自動車	何かにつかまっていられない。飛来物によって負傷するおそれがある	細い木の幹が折れたり、根の張っていない木が倒れ始める。看板が落下・飛散する。道路標識が傾く	通常の速度で運転するのが困難になる	屋根瓦・屋根葺材が飛散するものがある。固定されていないプレハブ小屋が移動、転倒する。ビニールハウスのフィルム(被覆材)が広範囲に破れる	
25~30 ~約110km/h							
30~35 ~約125km/h	猛烈な風	特急電車	屋外での行動は極めて危険	多くの樹木が倒れる。電柱や街灯で倒れるものがある。ブロック壁が倒壊するものがある	走行中のトラックが横転する	固定の不十分な金属屋根の葺材がめくれる。養生の不十分な仮設足場が崩落する	
35~40 ~約140km/h							外装材が広範囲にわたって飛散し、下地材が露出するものがある
40~ 約140km/h~							

参考資料：気象庁リーフレット「雨と風(雨と風の階級表)」

で災害に遭うケースもある。気象に関するこういった情報は気象庁のホームページで確認することができるが、どのような状態になるのかご存知だろうか。一覧にしたので参考にしてもらいたい（前ページ表）。

「外出時、とくに遠出をするときは気象警報や注意報に注意するようにしましょう。最近ではスマートフォンなどで気象警報や注意報を確認できるようになり、外出先の情報を手軽に入手できるようになりました。その上で正しい判断ができるようきちんと知識を知っていることが重要です」。

今年初めには苫小牧で猛吹雪の中、車で出掛けた男性が林道で動けなくなり、救助にきた職員が死亡する事故が起

こった。この日は外出を控えるようにテレビでも呼び掛けられており、情報に対して適切な判断が出来なければ、最悪の場合は死に至るといことが現実となったケース。

「外出時にはきちんと情報を集め、少しでも自分で出来る対策から始めましょう。手軽に準備できるものや日用品でも役立つものがあります。福井県で大雪に見舞われた際、車が立ち往生したために歩いて脱出した方々の中に、エマーゼンシーシートを被っている方が数名いらっしゃいました。薄くて軽いシートで暖かさを得られる商品ですが、頭からかぶっても外が透けて見えるということを知っている方は少ないかもしれません。安全もしっかりと確保できる

よく考えられた商品で、価格も数千円程度で販売されています」。

これだけでも暖かいが組み合わせるのにお勧めなのが、包装などに使用される緩衝材という。

「空気の層がある緩衝材を床に敷いて座り、エマーゼンシーシートを被ったり、シートと一緒に体に巻いたりするとそれだけでかなり暖かさを感じられます。通信販売などで包装に使われて送られてくることも多いかと思えますので、お金を掛けずに備えられる防災用品の一つとしてお勧めです」。

また参考までに持ち歩ける防災用品についても、普段どのような物を持っているのか教えていただいた。

「先ほどのシート、ホイッスル、方位磁石、ライト、ロープ、雨具、反射テープ、マスク、手袋、人工呼吸用のマウスピース、自転車のケーブルロック式の鍵などです」。

このほか、飲み物や薬、ちよっとした軽食、携帯充電器などもある。携行品には好み





もあるので、自分に必要な物を考える参考にしてもらいたい。

「方位磁石はスマートフォンを使うことも多いかと思いますが、うまく電波などが受信できず意外と合っていないこともあるので注意しています。人工呼吸用のマウスピースはこれを携帯していれば、誰かに助けてもらえる可能性もあり、自助・互助両方に役立ちます。反射テープは暗い場所で自分の居場所を知らせるだけでなく倒れている人を見つけやすくするなどにも使えます。」

自転車のケーブルロック錠は災害時荷物を手元から離さなくてはならないときに重宝します。その場にある椅子やテーブルなどにロックが掛けられていると見えないように付けておくだけで盗難のリスクが下がります」とさまざまに場面を想定してアドバイスを

いただいた。

## 外出先の施設で チェック

さらに外出先で注意できる点についても教えていただいた。

「旅行に出掛ければ、ホテルなどに泊まるでしょう。ホテルなどの施設には一般住宅よりも厳しい防災のための基準が設けられており、宿泊施設の各部屋には懐中電灯が設置され、入り口近くに避難経路が表示されています。避難経路は表示を確認するだけでなく、実際に避難口まで行つてどのようなようになっていのか確認することをお勧めします。場所によって鍵が掛かっていたり、外階段だったりなどの特徴があります。ドアを開けて確認したい場合は、勝手に開けると警報が鳴る場合がありますので注意しましょう。」

また懐中電灯は入り口にあるとは限りませんので、設置場所を確認しましょう。

あるとき旅先のホテルで懐中電灯を確認したら電池が入っていないことがありました。壊れていないか、電池が入れているかくらいは確認した方がよいでしょう。中には電池の消耗を防ぐために通電防止のシートが挟んであることがありますので、無理やり外したりはしないようにしましょう。」

またホテルには非常電源があり、停電になっても切り替わって30分程度は点灯する仕組みになっているという。

「劇場などの施設では、非常灯がついていますが、非常口の場所や避難経路などは事前を確認しておきましょう。中には観賞中は非常口の電灯を隠してあるケースもあります。また照明など落下の危険があるものが近くにならないかもチェックしましょう。」

これから先のレジャーの季節、出掛ける前に災害について家族で話し合う機会を設けてはいかがだろうか。